

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立新池中学校 第3学年、全生徒
実施生徒数（158人）

4. 調査の内容

- (1) 学力に関する調査
 - ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学。
 - イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。
 - ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。
 - (2) 学習状況に関する調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。
 - (3) 学校の取組に関する調査
調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。
- ※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、大阪府や全国と比べ中位層が少なく、上位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 69／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 64.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
【書くこと】 ○文章の構成の工夫について書くことができているが、段落の相互関係について説明することにはやや課題がある。 2一 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く (31.0/24.8) 2二 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える (84.2/74.5)	【読むこと】 ○登場人物の言動から本文の内容を読みとることはできているが、本文の内容を引用して表現することにはやや課題がある。 3三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する (76.6/71.0) 3四 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ (39.9/20.5)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	51.3	60.8	◇	9.5
国語の勉強は大切だと思いますか	89.2	91.6		2.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	75.3	80.1		4.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	83.6	74.6	◇	9.0
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか	85.4	77.0	◇	8.4
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	73.4	73.7		0.3

○国語の勉強はあまり好きでなはい傾向にあるが、国語の勉強は大切であると感じている生徒が多い。

○国語の授業において、自分の考えを深めたり文章にして表現したりする活動が多く行われている。

○国語の記述問題に対して、最後まで解こうと努力する生徒が多い。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ、上位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 59／泉佐野市 52／大阪府 56／全国 57.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>【資料の活用】 ○ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることが、概ねできている。 8（1）－気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く。(91.1/83.0)</p>	<p>【図形】 ○平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することに、やや課題がある。 9（1）－四角形 ABCD が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。(54.4/44.3) ○錯角が等しくなるための、2直線の位置関係が、概ねできている。 9（2）－錯角が等しくなることについて、根拠となる直線 FE と直線 BC の関係を、記号を用いて表す。(71.5/64.3)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	51.2	59.1	◇	7.9
数学の勉強は大切だと思いますか	63.3	84.1	○	20.8
数学の授業の内容はよくわかりますか	63.3	74.6	○	11.3
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	61.4	74.6	○	13.2
解答時間は十分でしたか（数学）	86.0	80.5	◇	5.5

○数学の勉強をする意味や必要性を感じていない生徒が多い。

○解答時間が十分だったと感じている生徒が多い。

○生徒の興味関心を引き出す授業づくりをする必要があると、考えられる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	就寝時間、起床時間は、全国を下回っている。 自分の思っていることや感じていることを言葉で伝えることは全国をわずかに下回っているが、当てはまるの項目で見ると<43/32.8>全国を上回っている。	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか<72.8/79.8> 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか<86.1/92.7> 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか<74/75.2>
【家庭学習の様子】	学校以外での勉強時間は全国を上回っている。 地域行事への参加は、全国を大きく下回っている。	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） <u><51.3/41.8></u> 今住んでいる地域の行事に参加していますか <u><31.7/43.7></u>
【学校での学習の様子】	コンピュータを活用する場面は、全国を大きく上回っている。 1,2年生のときに受けた授業では、工夫を凝らした授業を行い、各項目で全国を大きく上回っている。	1,2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。 <u><60.8/33.4></u> あなたの学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか<92.1/34.8> 1,2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか <u><89.9/83.7></u> 1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか <u><75.9/62></u> 1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行ってきましたか<70.2/59.5>

本校の取組

◎これまでの取組

- ・ 過去3年間の「確かな学びを育む学校づくり」での実践を土台とし、授業改善に取り組んでいる。
- ・ 今年度は「スマートスクール実現モデル校」として積極的に一人一台タブレット端末を活用している。
- ・ タブレット端末の持ち帰りを行っている。
- ・ 生徒会が中心となり、全校生徒をオンラインでつないだ「学校まるごとオンラインミーティング」を実施し、タブレット端末の使用時のルールについて、全員で議論した。
- ・ タブレット端末を活用して、オンラインでゲストティーチャーを招聘している。
- ・ タブレット端末を活用して、インタラクティブスタディを用いて、学習の定着を図っている。
- ・ 1年生の英語科で少人数習熟度別指導を行っている。
- ・ 全学年で朝の学習を実施している。
- ・ eライブラリの学習プリントやiプリ、全国入試問題の過去問を利用し、学習内容の定着を図っている。
- ・ まなびんぐサポート事業を活用し、1年生の希望者に対して放課後学習を実施している。
- ・ テスト前に補充学習を実施している。
- ・ 家庭学習を定着させるために、学年でマイチャレンジ（自学自習ノート）の取組みを行っている。
- ・ 情報教育についての授業を実施している。その中で、スマートフォン・携帯電話の使用に関する学習を通して情報モラルについて理解を深めている。
- ・ 泉佐野スタンダードを用いて、授業担当者向けのアンケートを実施し、日々の授業の振り返りを行っている。
- ・ 「スマスク推進委員」が主催して、学期ごとに研究授業を実施している。今年度は、「全ての生徒がわかったら楽しい、できたら嬉しいを実感できる授業をめざして」をテーマに、取組みをすすめている。
- ・ 相互授業参観週間を設け、教員同士高め合える関係作りを行っている。
- ・ 市内統一アンケートの結果を分析・検証し、指導につなげている。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研修を実施している。
- ・ 学期ごとに、生活アンケートを実施し、生徒一人ひとりの教育相談も行うことで、生徒の状況把握に努めている。
- ・ 6月にhyper-QUを実施し、その分析・検証を校内研修で行い、本校の生徒の状況把握や理解に全職員が努めている。
- ・ 新池中学校区の小学校とも連携し、小中一貫教育の実現に向けて取り組んでいる。
- ・ 4月に生徒指導に関しての校内研修を実施し、全職員が同じ方向性を持って指導できる環境や体制を構築している。

◎これからの取組

- ・ 2回目のhyper-QUを11月に実施し、生徒の状況がどのように変化したのかを校内研修で分析・検証し、生徒一人ひとりの状況や学級の状態を的確に把握することにより生徒理解を深めながら、より適切な指導や対応につなげていく。
- ・ 12月に「スマートスクール実現モデル校」として、全授業タブレット端末を活用した授業を公開する。
- ・ 12月に3日間オープンスクールデーを設け、地域に学校を開く。
- ・ 「スマスク推進委員会」主催の校内研修を12月に行う。
- ・ 「スマスク推進委員会」主催の研究授業を2月に実施する。
- ・ chromebookを用いた、個別最適化の学びを実現していく。
- ・ 生徒授業アンケートの実施と結果分析を行う。